

長岡京市第二期環境基本計画について

平成25年3月に長岡京市環境基本計画（平成13年3月）を改定し、策定しました。第一期の計画を引き継ぎ、幅広い視点から環境をとらえた総合的な環境まちづくりのガイドラインであり、環境政策の基本指針として位置づけられています。

長岡京市第二期環境基本計画実施計画について

長岡京市第二期環境基本計画の策定を受けて、より具体的に取り組みを進捗させるため平成26年4月に「長岡京市第二期環境基本計画実施計画」（以下、「実施計画」）を策定しました。

また実施計画においては、長岡京市第4次総合計画（2016年～2030年）で位置づけられている環境面の施策とできるだけ連動させ、整合を図っています。

長岡京市第二期環境基本計画実施計画進捗報告書の目的

- ・実施計画の取り組み成果を「見える化」
- ・市民の環境意識の向上
- ・市の環境関連施策の周知

進捗評価の方法

- ・進捗評価は、事業実施課が自己評価を行います。
- ・評価は、下記を目安として行います。

<評価の目安>

	数値目標	定性の目標
◎	目標数値を達成	目標の状態に達している
○	目標数値の7割以上達成	目標の状態に完全には達していないがおおむね達成していると判断できる
△	目標数値の7割未満の達成	前年度より進捗している
×	目標に達するための取り組みをしていない	前年度から取り組んでいない

進捗評価の活用

- ・生活環境審議会は、必要時には、市長に対し施策の提言を行います。
- ・各事業課は、進捗が遅れている場合などは、次年度以降の取り組み計画などを見直します。
- ・継続して評価を積み重ね、次期計画改定の際の資料とします。

1. エネルギーを大切にするまちづくり

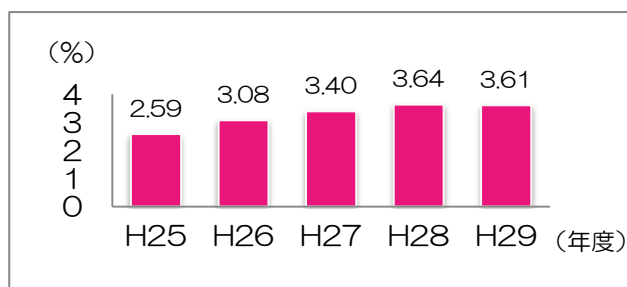
目標指標 再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率

平成29年度の目標	平成29年度の結果
3.63%以上	3.61%

※参考：環境モデル都市 長野県飯田市9.42%（H29年度末）



過去5年間の再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率の推移



(1) 再生可能エネルギーの活用

①家庭、事業所などへの再生可能エネルギーの導入

薪ストーブ設置助成・西山産薪購入助成の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
薪ストーブ助成件数3台	薪ストーブ助成件数3台
薪購入助成件数850束	薪購入助成件数864束



西山の森林・竹林の整備により間伐された木材の活用を図り、継続的な森林整備と地域資源循環型社会を構築し、地球温暖化防止につなげていくため、薪ストーブと西山産薪の購入に対して助成を行っています。

平成29年度は個人宅に3台設置された薪ストーブについて補助を行いました。

西山産薪は864束（27件）の補助申請があり、昨年度よりも16束増加しました。



薪ストーブ

②公共空間における再生可能エネルギーの導入

太陽光発電システムの設置

平成29年度の目標	平成29年度の結果
累計11箇所	累計10箇所



西代里山公園管理棟

市では、公共施設の更新時などにできるだけ省エネルギーに配慮するとともに、再生可能エネルギーの導入も進めています。ここ数年は小学校と保育所の複合施設の建設を行っており、その際には太陽光発電システムの導入を検討し設置しています。

また平成31年3月には長岡第六小学校・新田保育所複合施設の屋上に太陽光パネルを設置する予定です。

<公共施設における太陽光発電システム設置状況>

施設名	最大出力(kW)	施設名	最大出力(kW)
バンビオ1番館	10kW	神足小学校	29kW
バンビオ2番館	30kW	長法寺小学校	0.912kW
東第二浄水場	40kW	長岡第五小学校	15kW
西代里山公園	5.46kW	長岡第七小学校	30kW
		長岡第九小学校	4kW
		長岡第十小学校	4kW



薪ストーブの設置

平成29年度の目標	平成29年度の結果
累計5箇所	累計4箇所

長岡京市西部には、市域の約4割を占める西山がありますが、山を健康に維持するために木を間引きしていく必要があります。その木を薪にしてストーブの燃料に利用することで、地域資源の循環につなげる取り組みを進めています。

市の施設では、神足小学校、西山公園グリーンハウス、西山公園体育館及び西代里山公園管理棟に設置されています。



西代里山公園管理棟の薪ストーブ

- ③住民参加型再生可能エネルギー利用システムの導入
④地域特性等を踏まえた再生可能エネルギー導入の検討

住民参加型の再生可能エネルギー活用の仕組みづくり

平成29年度の目標	平成29年度の結果
企画検討	企画検討（他市事例研究）

平成28年度から引き続き、自治体 PPS やバイオマスエネルギーとしての竹の利活用について事業者や先進自治体へのヒアリングを行いました。

平成29年9月には、株式会社 DK-power と再生可能エネルギー導入（小水力発電）事業に関する協定書を締結しました。協定に基づき北ポンプ場にダイキン工業製（22kW クラス）小水力発電機1基を設置し、平成30年4月から発電を開始しています。



（2）省エネルギーの推進

①エネルギー効率の改善

中小企業等に向けた改善支援

平成29年度の目標	平成29年度の結果
環境マネジメントシステム認証取得補助件数 累計12件	環境マネジメントシステム取得補助件数 累計8件



中小企業等に向けて運用面で省エネを進めてもらうため、「環境マネジメントシステム」の取得を推進しています。

環境マネジメントシステムとは、組織や事業者が、その運営や経営の中で環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための体制や手続き等の仕組みのことです。導入することで事業活動が見直され、大きく省エネが進むことが期待できます。ISOや京都発のKESなど、外部認証による規格を初めて取得する際の費用に対して、補助が受けられます。

平成29年度は、広報長岡京やホームページなどで制度の周知を図りましたが、申請はありませんでした。

環境に優しい市庁舎の建設

平成29年度の目標	平成29年度の結果
新庁舎建設基本構想の策定	長岡京市庁舎等再整備基本構想の策定

平成29年度は、4月に「長岡京市庁舎等再整備基本構想」を策定し、『経済性・環境性能に優れ、機能的な庁舎』を基本方針の一つとして設定しました。また、その基本構想をもとに、平成30年3月に「長岡京市庁舎等再整備基本計画」を策定し、具体的な施策についてさらに検討を深めました。



②持続可能型エネルギーシステムの地域モデルの開発

省エネナビモニター事業の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
参加世帯電気使用量 前年比平均10%削減	参加世帯電気使用量 前年比平均8.3%削減

省エネナビをモニター家庭に貸し出し、電力を「見える化」することで日々の電気使用量を意識し、家庭の省エネを推進する事業です。貸出期間中はモニター同士の情報交換や省エネ市民アドバイザーによるアドバイスの場として「意見交換会」を開催し、「楽しく省エネ！」を合言葉に、家庭の省エネを推進しました。

参加したモニターからは「簡単に取り付けられて、赤、青のランプで分かりやすいので常に省エネに意識が高められた。とても良かった。」、「毎月の電気使用量のお知らせを見て前月は使い過ぎたなどと反省するところ、省エネナビで電力を消費するたび、リアルタイムで数字が表示され良い意味で緊張感を持ちながら節電を意識することが出来、貴重な経験をさせて頂きました。今後も日常生活に支障のない範囲で省エネ対策を継続していきたい。」などうれしい声をいただいています。



③省エネルギーの取組み拡大につながる広報・キャンペーンの展開

夏季・冬季における省エネの呼びかけ

平成29年度の目標	平成29年度の結果
広報紙・HPでの啓発 省エネモニター結果の公表	広報紙・HPでの啓発 省エネモニター結果の公表

長岡京市の温室効果ガス（地球温暖化の原因となる二酸化炭素などのガス）は、家庭と事業所（産業系を除く）から多く排出され、増加傾向となっています。平成29年度も継続して、すぐに取り組める省エネとして「今月のいちエコ」を広報へ掲載しました。また夏季及び冬季の省エネナビモニターへの参加の呼びかけに努めるとともに、その取組みの結果を広報長岡京やホームページで広く公表しました。



(3) エコ建築の普及

①エネルギー効率の高い建築物の整備

エネルギー効率の高い公共建築物の再整備方針の導入

平成29年度の目標	平成29年度の結果
再整備方針の策定	長岡京市庁舎等 再整備基本計画の策定



本市では、平成27年度に策定した「長岡京市公共施設等総合管理計画」を踏まえ、公共施設検討会議等において「長岡京市庁舎等再整備基本構想」について協議・検討を行い、平成29年4月に策定しました。このなかで『経済性・環境性能に優れ、機能的な庁舎』を基本方針のひとつとして設定しました。また平成30年3月には「長岡京市庁舎等再整備基本計画」を策定しました。今後も関係各課と連携をとりながら進めていきます。

また、建築物の低炭素化推進のため、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、京都府内産や市内産木材等の利活用方針が、京都府内すべての自治体で策定されています。



公共施設での緑のカーテン等緑化の取り組み

平成29年度の目標	平成29年度の結果
公共施設での緑化規模拡大	平成28年度16箇所→5箇所
全14校実施	小中学校11校

夏季のエネルギー効率を高めるため、庁舎や出先機関などの公共施設では、グリーンカーテンやすだれなどを活用し、日中のエアコンの使用量を削減するよう取り組んでいます。

平成29年度も（公財）長岡京市緑の協会の指導のもと、市職員がゴーヤ、琉球アサガオ、洛いもで緑のカーテンづくりに取り組みました。しかし、前年度に実施した公共施設の改修や日々の維持管理が困難等の理由で、昨年度の16箇所から5箇所に激減するという結果となり、平成30年度に向けての取り組みについて、検討を行いました。



長岡第四小学校のグリーンカーテン

また、市域全体でグリーンカーテンの取り組みを広げるため、平成25年度から実施している「グリーンカーテンコンテスト」（主催：（公財）長岡京市緑の協会）を今年度も開催し、家庭や団体の部門ごとに表彰が行われ、平成29年度の団体部門では長岡京市立長岡第四小学校が最優秀賞を受賞しました。

②エコ建築普及につながる情報の発信

まちづくり協議時の案内の範囲・内容の検討

平成29年度の目標	平成29年度の結果
案内実施	案内実施



「長岡京市まちづくり条例」に基づく開発の事前協議である「まちづくり協議」の際に、開発事業者等に対してエコ建築の普及を促しています。

③建築物のエコ化につながる仕組みづくり

住宅エコリフォーム助成の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
助成件数 20件	助成件数 3件



平成29年度においても住宅の断熱性能の向上など住宅の環境性能の向上を促進するため「住宅エコリフォーム補助金」制度を開始しました。

広報長岡京、ホームページへの掲載、長岡京市商工会建設業部会への説明を行ったが、助成件数は3件と伸び悩みました。

(4) エコ交通システムの導入

①公共交通利用の促進

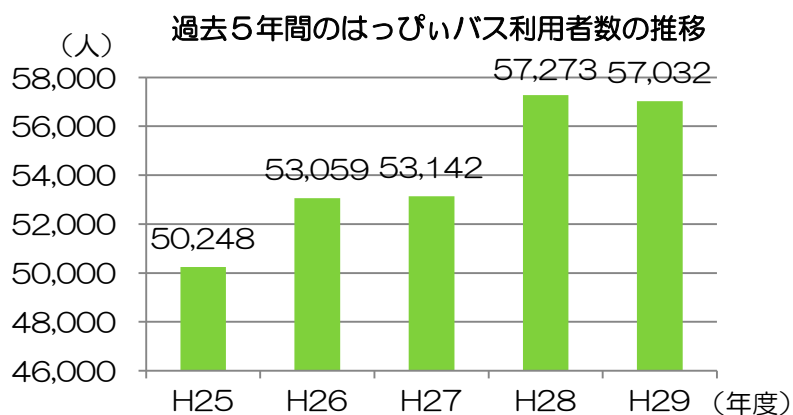
利用啓発及び利便性向上策の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
はっぴいバス 1便あたりの 利用者数 14.1人	はっぴいバス 1便あたりの 利用者数 13.6人



はっぴいバスは、平成18年10月から市のコミュニティバスとして運行しています。高齢者をはじめとする交通弱者の大切な交通手段として、また自家用車の利用を減らし、環境負荷を減らす手段としても、運行当初よりその必要性が増えています。平成26年度からは高齢者の運転免許証の自主返納支援として、はっぴいバス回数券（16回分）等を進呈しています。また平成28年度からは、月曜日から金曜日の祝日に実験運行を実施するなど、更なる利用者増に向けて、沿線自治会等とも協力しながら利用促進を行っています。

このような取り組みにより、平成29年度の利用者数は、57,032人で昨年度の57,273人から若干減少しましたが、市民の足として定着してきています。



市民の足“はっぴいバス”

②低公害車の導入

公用車への天然ガス、ハイブリッド、電気自動車等の低公害車の導入

平成29年度の目標	平成29年度の結果
導入率 45.0%以上	導入率 60.0%



低公害車とは、天然ガスや電気を燃料とするものやハイブリッド車、低燃費車を含みます。これらの自動車を導入することで、公務に伴う環境負荷を低減するとともに、市民の方への啓発を行っています。

③自動車の排出ガスの抑制

エコドライブ啓発

平成29年度の目標	平成29年度の結果
啓発活動2回 市HPでの情報提供	啓発活動2回 市HPでの情報提供

「地球温暖化防止月間」の12月に、のぼり旗を市役所前に掲出して啓発を行いました。また、交通安全啓発とあわせて、市内スーパーにおいてエコドライブのちらしを配布し、環境に配慮したエコドライブ推進の啓発を行いました。

市ホームページでは、「アイドリングストップ」と「エコドライブ」について常時情報発信しています。



④自転車利用の促進

自転車走行空間の整備

平成29年度の目標	平成29年度の結果
60m	20m

平成26～29年度の4か年で市道第4056号線において自歩道（自転車歩行者道）整備事業を進めています。平成28年度は延長170mの整備を実施し、平成29年度には最終年度として、50mの延長を予定していましたが、自歩道拡幅に伴う電柱移設に時間を要したため平成29年度の自転車歩行空間の整備は延長20mとなり、目標を下回りました。

残りの整備は、平成30年8月に完了しています。今後も自転車走行空間を整備していくとともに、安全な自転車の利用について啓発を行っていきます。



市道4056号線にある自歩道

⑤電気自動車の充電設備の導入

急速充電器の利用促進

平成29年度の目標	平成29年度の結果
長岡京市役所駐車場 利用台数 85台	長岡京市役所駐車場 利用台数 214台
阪急西山天王山駅 市営駐車場 利用台数 210台	阪急西山天王山駅 市営駐車場 利用台数 298台



二酸化炭素の排出を減らし、大気汚染を防止するため、国の政策として電気自動車の普及促進を行っています。電気自動車の普及に向けた課題として充電設備の不足、インフラの整備があります。そのため、本市では、阪急西山天王山駅東側の市営駐車場に1基、市役所駐車場に1基の急速充電器を設置し、来庁者や市営駐車場利用者へ利用を勧奨しています。

平成29年度の利用実績は目標を大きく上回っていますが、今後も電気自動車の普及に努めていきます。

2. 資源循環型社会の形成

目標指標 一人一日当たりの収集ごみ量

平成29年度の目標	平成29年度の結果
540.53g	525.9g

参考：京都府下（京都市を除く）の平均558g（平成28年度実績）



（1）廃棄物の発生抑制・再生利用の推進

①廃棄物の発生抑制

保育所及び小学校給食の生ごみ再資源化によるごみの減量

平成29年度の目標	平成29年度の結果
2保育所で再資源化の検証	2保育所で再資源化を検証



生ごみをたい肥として活用する「エコ農園」を3箇所のうち2箇所を廃止し、新たに生ごみの再資源化を検証するため、新田保育所と深田保育所において食品残渣の再資源化事業を新たに実施しました。

②廃棄物発生抑制、再生利用につながる広報活動の展開

出前講座の実施拡充

平成29年度の目標	平成29年度の結果
実施回数17回／年	実施回数15回／年



保育所や学校、自治会などで職員が出前講座を行っています。平成29年度は全小学校と保育所で合計15回実施しました。小さな子ども達が、ごみ分別の方法を楽しく学べるよう分別ゲームの実施やデジタル紙芝居の上映、パッカー車での作業体験などを行いました。



出前授業の様子

③廃棄物減量等推進員会議の活動促進

廃棄物減量に伴う研修会及び啓発活動

平成29年度の目標	平成29年度の結果
研修会4回 啓発活動2回	研修会3回 啓発活動1回

廃棄物減量等推進員は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第5条の8に基づき、市が委嘱し、市が実施するごみ減量の取り組みに協力するなどの活動を行います。

研修は、講師を招いての内部研修のほか、三重県四日市市クリーンセンターでの管外研修を実施しました。啓発活動は、市内3か所のスーパーと阪急長岡天神駅前で「マイバッグキャンペーン街頭啓発」を行いました。



マイバッグキャンペーン
街頭啓発の様子

(2) 資源回収の推進

①分別収集の促進

宅配便回収サービスによる使用済み小型家電の回収量

平成29年度の目標	平成29年度の結果
3.3t	2.2t

平成24年度に制定された「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」第5条により、市町村は使用済み小型家電を分別し回収するための措置に努めることとされています。

本市も平成27年度から「小型家電リサイクル法」の認定事業者と協定を結んで実施しており、平成29年度は2.2tの回収を行いました。



②市民が主体となった資源回収の支援

資源ごみ集団回収助成事業

平成29年度の目標	平成29年度の結果
団体数(86団体)の維持	実施団体数 86団体

資源ごみ集団回収活動とは、自治会、老人会、子ども会などの地域住民により構成される団体が中心となって古紙などの資源を集め、それらを回収業者に引き渡してリサイクルを進めていく活動です。対象の資源物は、古紙類(新聞紙、雑誌、ダンボール、牛乳パック、その他古紙類)及び古繊維(古着等)です。これからも地域での主体的な資源回収を支援していきます。



(3) 廃棄物の適正処理

①一般廃棄物等の適正処理

一般廃棄物（家庭系・事業系）を収集し、適正に処理する

平成29年度の目標	平成29年度の結果
一般廃棄物量 21,204.68t	一般廃棄物量 21,441.36t



平成29年度は、平成28年度の21,520.91tから79.55t削減できましたが、目標値の達成には至りませんでした。

②一般家庭用可燃ごみの収集

週2回の収集を実施し、適正に処分する

平成29年度の目標	平成29年度の結果
住民一日一人当たりのごみ排出量 447.29g	住民一日一人当たりのごみ排出量 448.38g



家庭から出る一日一人当たりのごみの量は、平成28年度より5.65g減りましたが、目標値より1.09g多くなりました。出たごみを減らすことも大切ですが、必要でない物を買わないことも大切です。また、ごみの量を減らすため、特に生ごみなどは水分をよく切って、量を減らすなど、適正な排出を心がける必要があります。今後も出前授業などを通して、分別や廃棄物減量などの啓発に努めていきます。

③粗大ごみの収集

受益者負担による粗大ごみの適正処理



平成29年度の目標	平成29年度の結果
家庭系粗大ごみ収集量 260.54t	家庭系粗大ごみ収集量 159.64t

家庭系粗大ごみの収集量は、平成28年度と比較して11.56t増加しました。

市内に粗大ごみが不法投棄されていることも少なくない中、無料回収の業者に安易に引き渡さないよう今後もホームページ等に掲載するなど注意喚起を行い、適正な排出を呼びかけていきます。

④適正処理に向けた広域連携

乙訓二市一町での事務連絡会の開催による処理課題の解決

平成29年度の目標	平成29年度の結果
事業系ごみの排出量 5,274.00t	事業系ごみの排出量 5,894.61t



事業系ごみの増加は、同じ廃棄物処理施設を利用している乙訓二市一町の共通課題です。

本市では、平成28年度実績から29,33t増加し、目標を620,61t上回る結果となりました。

(4) 水資源の有効活用・水環境の整備

①雨水利用の推進

雨水タンク設置補助の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
45基/年	18基/年



雨水タンク設置補助は、平成19年度から実施しており、平成29年度は新たに18件の設置があり、これまでに計426件の雨水タンクが設置されました。また水循環基本法に基づく「雨水再利用促進」の取り組みの一環として、8月1日に水の日イベントとしてバンビオ地下雨水再利用施設の見学会を実施するとともに第9回長岡京市環境フェアに出展し雨水タンクの設置促進を呼びかけました。

②水を大切にするライフスタイルの普及啓発

水だよりの発行

平成29年度の目標	平成29年度の結果
3回発行/年	3回発行/年

水だよりでは、水質検査の結果や水道施設の状況等をお知らせするとともに、水を大切に考えてもらうための内容やイベント情報などを掲載しています。水だよりの発行を通して、上下水道の安心を支えるための情報発信を行っていきます。



③下水道事業の推進

小中学校に雨水貯留浸透施設を整備

平成29年度の目標	平成29年度の結果
2校	2校



平成25年度に策定した水循環再生プラン事業の整備計画、平成26年度の詳細設計に基づき、平成27年度は長岡第十小学校の雨水貯留施設1基、雨水浸透ます9基を整備しました。平成28年度には長岡第九小学校と長岡第四中学校の実施設業務委託が完了し、平成29年度には長岡第四中学校に雨水貯留施設1基、雨水浸透ますを7基整備しました。更に、平成30年度は、長岡第九小学校の整備を進めていきます。

計画の目的

雨水の貯留浸透施設の新設や、既存の水循環機能を保全・整備し、かつての健全な水循環を再生することで、近年の集中豪雨による浸水被害リスクを軽減します。また、水資源を効果的に活用して、地下水の保全や日常生活での利用につなげることを目的としています。

10年降雨確率に対する雨水対策整備率

平成29年度の目標	平成29年度の結果
67.7%	67.7%



市の中心部である犬川排水区の整備に向け計画を進めて行くため事業認可変更が必要であり、平成29年度は、事前認可変更の前段である都市計画下水道の変更を行いました。今後も関係機関との協議を進め、事業認可変更を実施します。

※10年降雨確率に対する雨水対策整備率とは…

おおむね10年に1回の大雨を想定し、下水道施設の整備を行います。このような下水道整備ができた区域の比率をいいます。